

石高神社報

第二十七号

隨身門修復のご寄進状況

隨身門の修復工事につきましては、多くの方々にご寄進を賜りましてありがとうございます。現在のところ、まだ目標額の三分の二を少し超えた金額に留まっています。ひきつづき皆様にご浄財のご寄進をお願いするほかはありませぬ。隨身門は江戸時代末期の建物ですが、壊れてしまうと修復工事ができなくなってしまうと。昭和三十年ごろまでは絵馬殿があり、貴重な民俗絵馬があつたと、岡長平著作の「ぼっこ横丁」に書いてあります。しかし、今は跡形も無く、絵馬も散逸して残っていません。隨身門が絵馬殿の二の舞いにならないように、何とか修復をしなければなりません。そして、江戸時代の文化遺産を子孫たちに伝えていきたいと願っています。更なるご協力をお願い申し上げます。

石造物に注意 危険！

石垣や灯ろうなどの石造物の上にむやみにあがらないように気をつけてください。

昔あつた行事 ③ 胃の痛み封じ

今は行われていない御祈禱のひとつに「胃の痛み封じ」があります。神社での御祈禱のあと、竹の筒を四つ辻に埋めるとご利益があるとのことでも多くのお参りがあつたようです。竹筒は消化管を示しており、多くの人に踏まれるように人通りの多い四つ辻に埋めたと考えられます。現宮司の祖母（昭和三十六年没）は、この御祈禱をしていましたが、道が舗装されて竹筒を埋める四つ辻がしだいに無くなってきたこともあつて、廃れた（すたれた）と聞いています。

当時のことを覚えておられる藤田唯夫氏が次のように教えていただきました。

「七、八歳の頃、祖父が神社のすぐ前で店をしており、竹の筒と白い紙をセットにして売っていた。子供の頃のことなのではつきりしないが、神社で用意しておいてくれと言われていたのだろう。竹筒は、節が無く、親指と人指し指でつくる輪くらいの太さで、長さは親指と人指し指をひろげてつくったくらい長さだった。大勢の人がお参りしていた。」

発行日 平成二十一年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 ○八六―二七七―九〇〇三

ほかにも石高神社の昔のいろいろなことについて、ご存じの方がおられましたらお教えください。

石高神社略記

おなむちのみこと

御祭神

大己貴命

須勢理姫命

すせりひめのみこと

配祀

仲哀天皇

神功皇后

応仁天皇

ちゅうあいてんのう

じんぐうこうごう

おうじんでんのう

出雲の神様を主祭神に、合わせて八幡様をお祀りしています。出雲神話の主役である大己貴命は、別名もたくさんありますが、神話の「因幡の白うさぎ」に登場する大国主命として有名です。また、仏教の守護神と習合して、七福神のひとつである大黒様としても知られています。須勢理姫命は大己貴命の正妻です。八幡様とはふつう応神天皇を首座に比売神（ひめがみ）・仲哀天皇・神功皇后のことをいいます。

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳で一番古い備前国総社神名帳の綿抜本または総社本（八六三年頃）に石高神社と載っており、備前の式内、式外古社百二十八社の内の一社です。

社伝によりますと、昔には今の宮山から北手にあります高倉山（石鉄山）の頂上に大己貴命を祀る石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮がありま

した。この両社を天和三年（一六八三年）頃に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬されてきました。このため、江戸時代の書物には、八幡宮として載っています。その後明治四年に旧号の石高神社にもどり、幡多郷の総鎮守産土神となりました。幡多郷というのは、一七二一年編纂の備陽記によりますと、清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしています。現在の鎮座地からはわかりにくいのですが、古代から栄えていた操山山系の北側と新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護って来ました。

石高神社のおもな行事のご案内

歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後の一時ごろまでと、三が日の午前九時ごろから夕方五時ごろまで新年の家内安全祈禱と厄払いを行っています。

どんど焼きおよび古神札焼却祭

一月十四日以降で最初の土曜または日曜に、境内で行っています。

平成二十二年は一月十六日（土）午前十時より行う予定です。正月のお飾りのほか古神札焼却も行い



ます。なお、ビニール、プラスチック、金属類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼却します。また、例年通りぜんざいを用意する予定です。

※ 当日の作業やお接待に人手が足りません。
お手伝いをお願いいたします。

厄払い

数え年でその年の厄年、祝年の方がお祓いを受ける慣わしです。当社では、二月一日が「厄払いの日」とされておりますが、一般には元日から節分までにお参りします。平成二十二年のおもな厄年と祝い年を一覧表にしましたので参考にしてください。祝い年は男女ともに同じです。

平成 22 年厄年祝年

女 19 歳	平成 4 年生
男 25 歳	昭和 61 年生
女 33 歳	昭和 53 年生
男 42 歳	昭和 44 年生
還暦祝	昭和 25 年生
古希祝	昭和 16 年生
喜寿祝	昭和 9 年生
傘寿祝	昭和 6 年生
米寿祝	大正 12 年生
卒寿祝	大正 10 年生
白寿祝	大正元年生

輪くぐり(夏祭り)

七月三十一日晩は夏祭りです。茅の輪をくぐってお参

りするので「輪くぐり」といいます。年の前半の罪・穢れを祓い、疫病から身を守っていただくお祭りです。ひとがたゝに家族の生まれ歳の干支、男女の別などを書いて身を払ってご持参ください。ひとがたゝは拝殿にも置いてあります。晩六時ごろから九時前までにお参りください。

秋祭り

十月三日から五日の三日間が秋祭りですが、このうち三日の晩が氏子参りの日になっています。この日だけ夜店が出ます。晩六時ごろから九時前までにお参りください。五日には氏子総代が参列して祭典を行っています。

七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を述べ、以後の無病息災を祈願します。十一月十五日前後にお参りします。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭、神葬祭等随時受け賜っております。ご相談ください。

ホームページ

宮司手作りのホームページがありますのでご覧ください。行事の前後に更新しています。アドレスは <http://www.w31.ocn.ne.jp/~ishitaka> です。「石高神社」で検索すると出てきます。

はらえことば

祓詞の揭示

参拝の方から助言をいただき、「祓詞」を拝殿正面に掲示しています。これは祭祀の最初に行われる修祓(しゅばつ)の時に奏上する祝詞です。修祓は、罪・穢れ・厄災などを取り除く神事のひとつです。神社にお参りするときには、自らの祓い清めが神様に近づくための大切な行いとなります。二礼、祓詞奏上、二礼二拍手一礼の順でお参りしてみてください。略式では、「祓え給い清め給え」と唱えます。



石高神社の場所と駐車場

南側には、石段を上がる表参道があります。自動車でお参りの場合は、宮山の東側を山に沿って進むと、北側から山に上がる参道があります。下の地図をご覧ください。右に少し曲がりながら上がると本殿の裏に出ますので、ここに駐車するのが便利です。まっすぐ進むと行き止まりです。なお、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

後記

石高神社の簡単な紹介を毎号するようにしていますので、今回も同じような内容になってしまいました。町内会長はじめ役員の方々には、社報配布などいろいろとお世話になり、ありがとうございます。

